

第三十表 磐梯山噴火

年月日	同上(西曆)	記事
大同元年	八〇六年 七月一日	<p>猪苗代湖水湛也云。<small>(會津舊事 土其考)</small></p> <p>古書ニハ「此山火ヲ吐キ近傍十里四方ノ地硫黄ヲ生ジ蒸發シテ人身ニ害アリ、猪苗代ノ湖水成立シ……噴火モ硫氣モ止ム……」云々ト書イテアル、又々大同年間ノ噴火ノ時ニハ月輪郷、更科郷ナンドノ五十餘ケ村ガ陷落シタト唱ヘテ居ル、此等ノ事カラ考ヘルト、此湖ハ有史以後ニ出來タ比較的新ラシイモノラシイ、湖縁ノ地質ノ構造カラ考ヘテ見テモ磐梯カラ來タ噴出物ガ同山ノ南西ニ堆積シテ那須山脈ヲ通ジテ居ル分水線ノ兩側ヨリ源ヲ發スル流水ヲ此ニ堰止メテ今日ノ猪苗代湖ガ出來タノデア<small>ル。(田中子爵著「湖沼」ノ研究ニヨル)</small></p> <p>大破裂 七月十五日ハ天氣快晴ニシテ山ニハ雲ヲ見ザル程ニテ西北西ノ微風吹キシガ朝七時頃ヨリ山ノ方ニテゴウ／＼ト鳴音アリ七時半過ニ頗強キ地震アリ暫時ニシテ再ビ猛烈ノ地震起リ未ダ搖リ止マザル中ニ午前七時四十五分ニ至リテ小磐梯ハ破裂セリ其時非常ナル爆音ト共ニ黑煙一條柱ノ如クニナリテ上空ニ立昇リ、引キ續キテドンドン十五乃至二十回モ繰リ返ヘシテ噴煙シ、其度毎ニ煙ハ最初ノモノト殆ト同ジ高サニ登リ最終ノ一發ハ北ニ向ツテ抜ケタリ、最初ヨリ此時迄デ凡ソ一分時間ナリ</p>
明治二十一年七月十五日	一八八八年 七月一五	

年月日

同上 (西曆)

記事

其他ノ小破裂ハ無數ニシテ三四十分間ハ激シク鳴動セリ、煙ハ初メハ四五千尺モ揚リシガ段々登リテ其上ノ方ヨリ擴リ傘ノ様ナル形トナリシトキハ大磐梯山ノ三四倍(猪苗代ヨリ見タルトキニ)トナレリ、灰ハ温度高ク熱雨トナリテ山麓ニ降下セリ。

**大泥流** 此ノ破裂ニ就キテ最モ著ルシキ出來事ハ山崩レノ爲メニ大泥流ヲ現出セルコト即土石ガ山下諸方ヘ流レ出シテ恰モ土石ノ洪水ヲ生ジタル一事ナリ之ガ爲メニ山林田野凡ソ七千町歩程ハ全ク地盤ヲ變ジ或ハ大害ヲ蒙リ四ヶ村ハ人畜家屋悉ク其下ニ埋没シテ其他ノ村ニテ數百人士石ノ下ニ慘死セリ數十尺四方モアランドスル大石ガ往々噴口ヨリ一二里ノ處ニ散在セシガ、大泥流奔下ノ速度ハ一時間ニ約四十八哩ノ割ナリキ。元來小磐梯ハ北ニ傾斜シ一直線ニ長瀨川ニ向ツテ下リアリタレバ、爆裂ノ際モ此方ニ向テ崩壊セラレ土石ハ北ヲ指シテ墜落シ來リ其餘勢ヲ以テ長瀨川ノ上流ニ向ケ溯リ檜原地方ニ擴ガリ秋元原、細野、雄子澤ノ諸部落ヲ埋没シタリ、其内一部ハ長瀨川ヲ降り川上湯泉ヲ埋メ其ヨリ長坂村ノ下ヲ經テ樋之口ニ至リ止マリタリ、此北面ニ散布シ出テタルモノハ之ヲ本流トモ稱スベク又一ノ枝流ハ全ク異リタル道ヲ探リ東ノ方ニ向ヘリ是レ小磐梯ノ沼之平ニ傾斜セシ部分ニシテ東ニ向ケ崩レ枇杷澤ト稱スル廣クシテ深キ溪ヲ降レリ見禰村ヲ壓セシ土石ハ是ナリ、但シ此方面ノ流出物ハ重ニ山ノ表面ヲ成セル土壤ナレバ岩石ヲ混ズルコト北方へ出デタ

ルモノヨリモ少ナシ。

噴口 噴口ハ北ニ向テ開キU字形即チ馬蹄形ヲナセリ、噴口ノ廣サハ馬蹄ノ口ニテ東西ニ二十二町三十五間アリ、其南北ノ奥行キハ二十町程ニシテ、總面積ハ三百八十六町步餘ナリ。又タ噴口ハ海面上三千八百六十一尺ノ高サナリ、今度噴口ヨリ凡ソ二千尺ノ處ハ全ク崩レテ跡形ナシ、即チ小磐梯ノ大部ハ今其跡ヲ留メザレドモ其小部ハ南方ニ殘レリ、而シテ崩壞シタル部分ノ容積ヲ計算スルニ約二億六萬立方坪、即チ九百三十五立方町ニシテ、其重量ハ八千八十億貫目ナリ。

破裂ノ風 破裂ノ際ニハ狂暴ナル疾風起リ灰礫ヲ交ヘ來ツテ家ヲ倒シ木ヲ拔キ其勢ノ猛烈ナルハ赤埴山ノ半腹ニアル森林ノ松木ニテ二抱ヘ三抱ヘアル大木ノ算ヲ亂シテ倒レタルヲ以テ知ルベク、又澁谷、白木城、見禰村ノ人家ノ吹飛バサレタル様ニテモ察セラル。而シテ家木其他ノ物ハ皆頭ヲ噴口ヨリ遠ザケテ倒レタルヲ見レバ山上ヨリ山下ニ向ケ吹キタル疾風ノ働キタルヤ疑ナシ。

爆音及ビ地震 爆音ハ風上ニ於テハ十三四里ノ地ニ聞コヘ、東北ノ風下ニテハ二十六里ノ太平洋岸ニ於テ微カニ聞コヘタリ、又信州上高井郡、佐渡、越後高田ニテモ鳴動ヲ聞キタリ。破裂ニ伴ヘル地震ハ山ヨリ十三四里四方ニ廣ガリシト云フ。

灰 灰ハ當日西北西ヨリ風吹キタルガ爲メ磐梯山ヨリ東南東ニ當ル地ニノミ降レリ、太平洋岸ニテハ其幅十七里餘トナレリ、山ノ近邊ニテハ灰

年月日

同上 (西曆)

記事

明治三十年七月五日

一八九七年 七月五日

ノ厚サ五六寸ナリシガ海岸ニテハ殆ド知レザル程トナレリ。  
 被害 見瀾、長坂等ノ七部落ニテ潰家半潰共百十軒アリ、死亡總數ハ四  
 百六十一名ニシテ、内發見セシ死體百十七ナリ、又負傷者ハ七十人ニシ  
 テ牛馬ノ斃レタルモノ五十頭ナリ。噴出ノ爲メ崩壞シ若シクハ土石灰等  
 ノ爲メニ覆ハレテ地盤變ジテ原形ヲ失セシ反別ハ次ノ如シ。

田畑宅地 八十三町

原野 二千二百七十九町

山林 四千二百二十八町

岩石ノミノ土地 五百四十町

合計 七千三百三十町

(以上東洋學藝雜誌第八十五號、第八十六號所載故關谷博士論文ニヨル)

五日午前十時二十分鳴動ス、八日夕刻迄ニ大小十一回ノ鳴動アリタリ。

(明治三十年七月十日  
四日世界之日本)